

トウキョウX肉質の変動要因の解明と斉一性向上

【背景と目的】

近年、規格外（ランク5）となる枝肉が頻発し、生産農家から原因の解明と早急な改善策が求められている。そこで肥育飼料の設計や給与期間の検討、および育成期からの疾病や遺伝的要因（止め雄）と肉質との関連を明らかにし、トウキョウX枝肉評価の安定化と出荷豚全体の品質向上を目指す。

【研究概要】

- （1）枝肉の格付け向上、特に肉しまり改善を主目的とした新たな飼料による肥育試験の結果、新飼料は従来飼料よりも肥育日数を要したが、IMF量は有意に高かった。2021年中旬以降、新飼料を指定飼料として、すべての生産農場で給与しているが、2022年以降は、格付けがランク5となる枝肉が各農家で激減した。また、応力計測器機を用いたロース断面の測定値が、評価2と3の間で有意差がみられ、評価の裏付けとなるとともに、応力値と出荷時体重との関連も示され、適切な出荷時体重の重要性が示された。
- （2）肥育日数との間に高い相関がみられた血中成分に着目したが、肉質との関係に一定の傾向は認められなかった。
- （3）肉質は父個体の影響が大きいと言われていることから、止め雄による肉豚の格付けへの影響を調査したが、ランク5となる枝肉が特定の個体や血統に偏っているとは言えなかった。やや出現率の高いと思われる個体においても、経年調査では影響が認められないことから、個体や血統が原因である可能性は低いと考えられた。